

早く火を消すためのくふう

おかざき 3・4年（下） p10～11

本時のねらい 火事の通報が通信指令室を経て、どのように各機関へ伝わるのか調べる。

学習の流れ（時間）	学習活動と内容	指導の工夫
1 写真から分かることを発表する。 (5分)	○『おかざき』P10の通信指令室の写真を見て分かることや気付いたことを発表する。 ・男の人がヘッドフォンをしている。 ・前方の画面に地図が映っているけど、火事の現場が出ているのかなあ。	・パソコン以外にも、前方に大型のモニターや、その横にある消防自動車の状況を示した電光掲示板があることにも注目するように促す。
火事の通報は、どのように伝わっていくのだろうか		
2 火事の通報がどこへ入るのか確認する。 (5分)	○火事が起きた場合の通報先や通信指令室について知る。 ・火事を見たら、119番に連絡する。 ・119番は、通信指令室という所へつながっているんだね。	・緊急通報の番号には、市外局番などが無いことを確認する。
3 通信指令室と消防署の位置を知る。 (5分)	○通信指令室の位置と自分たちの住む学区を担当する消防署を確認する。 ・岡崎市内には、10の消防署があるね。 ・私たちの町は、東消防署南分署の管轄なんだって。	・『おかざき』P10の地図を見て調べさせる。 ・通信指令室のある市役所東庁舎は、消防本部に隣接していることを補説する。
通信指令室からどのように指示が出され、消火されるのか考えよう		
4 通信指令室からの指示がどのように出されているか考える。 (25分)	○『おかざき』P11の「通信指令室の役わり」や「通信指令室の人の話」から、通報されてから消火されるまでのつながりを考える。 ・消防署以外にも連絡しているんだね。 ・ガスは、爆発すると困るからだね。	・火事を消すためには、たくさんの機関に協力してもらっていることを押さえるために、119番通報から火事現場までのつながりが分かるように板書する。
5 本時の学習を振り返る。 (5分)	○本時の学習で分かったことをまとめる。 ・早く火を消すために、たくさんの機関が協力し合っているんだね。	・「通信指令室の役わり」の言葉を考えながら、協力を要請する理由について考えるように助言する。

板書計画

火事の通報は、どのように伝わっていくのだろうか

